

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第13回運営委員会議事要旨

- 1 日時：令和4年11月9日（水） 12時00分～13時00分
- 2 場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎122講義室、及びオンライン（Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、佐波、柳生、大野（真城委員代理）、秋山、舟橋（星川委員代理）、安部、福島、蒲生（玄地委員代理）、岡部（佐々木委員代理）、岡島、石濱
陪席者：高田（セコム）、岩崎（産業技術総合研究所）、斉藤（筑波大学）、高野（〃）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

(1) 総会・運営委員会委員の交代について

遠藤副会長から、資料1-1及び1-2に基づき、NTT宇宙環境エネルギー研究所の委員交代について説明があり、原案のとおり承認された。続いて、新委員の秋山委員より挨拶があった。

(2) 協働大学院教員候補者の推薦について

遠藤副会長から、資料2に基づき、日本自動車研究所の内田信行教授（協働大学院）の退任に伴い、同研究所から新たな協働大学院教員候補者として北島創氏の推薦があった旨の説明があり、審議の結果、コンソーシアムとして北島氏を大学に推薦することとなった。

主な意見として、佐波委員より、今後協働大学院教員候補者について審議する際には資料として候補者の略歴があると望ましいとの提案があり、遠藤副会長から略歴書等の様式については一任願いたい旨の回答があった。

(3) 第3回 Joint Seminar 減災・R2EC 共同シンポジウム開催について

遠藤副会長から、資料3に基づき、共同シンポジウム開催案について説明があり、プログラムに次の点を追加することで承認された。

- 第3部・オープンディスカッション（30分程度）を設け、参加者がコーヒー等を飲みながら自由に情報交換できる時間を設定する

(4) 令和4年度コンソーシアム年間活動計画について

遠藤副会長から、資料4に基づき、2023年1月～3月のコンソーシアム活動計画案について説明があり、次の会議日程を追加することで承認された。

- 第23回幹事会：令和5年2月14日（火）12:15～13:15 嘉ノ雅 茗溪館
- 第14回運営委員会：令和5年3月15日（水）・16日（木）・17日（金）いずれかの午前中
オンライン（後日メール等により開催日時調整）

(5) その他

特になし

【報告事項】

(1) JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」審査結果について

遠藤副会長から、資料 5 に基づき、育成型で採択となったこと、及び来年度中に本格型昇格への申請を予定している旨の報告があった。続いて林会長から本事業の概要説明、及び協力依頼があり、本事業への参画に関心のある機関は遠藤副会長または事務局に連絡することとなった。

なお、本事業への協力に関して、次の意見があった。

（柳生委員）本事業の研究開発課題と、各課題にどの機関が参画しているかの情報が欲しい。現時点の座組みでアプローチ出来ない部分等があれば、そこに対して NEC として参画できるかを検討したい。

（遠藤副会長）後日、本事業の研究開発課題等について情報共有させていただく。

(2) R2EC ロゴマークの作成について

遠藤副会長から、資料 6 に基づき、R2EC ロゴマーク、及び当ロゴマークを使用した 150mm×70mm のマグネットを作成した旨の報告があった。また、後日事務局から各参画機関にマグネットを送付するので、各自の職場で積極的に掲示して欲しい旨の依頼があった。

(3) 参画機関と筑波大学の意見交換会の進捗について

遠藤副会長から資料 7 に基づき、既に 10 機関との意見交換会を実施し、残り 3 機関とも年度内に実施予定である旨の報告があった。

(4) 第 1 回ピッチ会開催について

遠藤副会長から、資料 8 に基づき、同日午後に開催する第 1 回ピッチ会の概要説明があり、全体セッションへのオンライン参加依頼があった。

(5) 第 21 回幹事会（R4.7.19）について

遠藤副会長から、資料 9 に基づき、令和 4 年 7 月 19 日に開催された第 21 回幹事会について報告があった。

(6) その他

特になし。

Ⅱ．筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

(1) コンソーシアム紀要について

岡島委員及び遠藤副会長から、従前から発行を検討していたコンソーシアム紀要をどのような形態にすべきかの意見照会があり、主に次の意見があった。

➤ 名称自体を「コンソーシアム活動報告」とし、ピッチ会、シンポジウム、各参画機関の年度ごとの

活動概要等の活動報告を積み上げていくものとしてはどうか。今後活動を進める上で、社内での稟議に添付する資料としても活用できるものであると有難い。

- 各年度のコンソーシアム活動の総括を「編集後記」等の形で積み上げていくことで、そこを読むだけで、それぞれの時代の「レジリエンス」の考え方の変遷等も見えて面白いのではないか。

(2) その他

特になし。

【報告事項】

(1) 参画機関向け学位プログラムリーフレットの更新について

岡島委員から、資料 10 に基づき、参画機関向け学位プログラムリーフレットを更新した旨の報告があった。また、後日事務局から各参画機関に R2EC マグネットとともにリーフレットを送付予定であるとの連絡があった。

(2) 令和 5 年度大学院入試（令和 4 年度実施入試）について

岡島委員から、資料 11 に基づき、8 月期入試の結果報告、及び 1～2 月期入試日程の告知があり、次のとおり説明があった。

- 8 月期入試（博士後期課程）では 8 名の合格者があり、うち 1 名は参画機関所属者、3 名は協働大学院教員を主指導に指名していること
- 博士後期課程の定員 13 名の充足のため 1～2 月期入試で 5 名以上を確保する必要がある、周囲で学位取得に関心のある方がいれば周知願いたいこと
- 次年度実施入試からは、7 月に受験し、同年 10 月に入学可能なシステムが導入される予定であり、社会人にとって受験・就学しやすくなること

(3) その他

特になし。

以上